

CODE 海外災害援助市民センター
2014 年度 事業報告

【1. 海外災害地への救援活動事業】

事業名	1-(1)アフガニスタン救援プロジェクト(ぶどう畑再生支援事業)
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の 4 村。人口は約 15,000 人、1560 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 537 世帯(2015 年 3 月時点)。
実施内容	<p>2003 年から上記 4 村でコーポラティブシューラ(ぶどう生産者協同組合)を立ち上げ、300 万円を原資として 288 世帯への融資をスタートした。融資を受けた世帯はこれを返済し、また新たな世帯に貸し付ける仕組みである。これにより、延べ 537 世帯が融資を受けた(2013 年 6 月現在)。カウンターパートである NGO「SADO」には毎年プロジェクト管理費を支援している。</p> <p>2007 年から 2009 年の 3 年間は JICA 草の根技術協力事業(地域提案型)に採択され、農家の方々を日本に招いて有機農業技術の研修を行った。その成果で収穫高も増加してきたが、主要な市場であったパキスタンへの輸出が 2010 年頃から禁止され、販路の開拓が最大の課題となっている。これに対し、インド市場を開拓するために現地メンバーと CODE によるデリー訪問を計画したが、2012 年度、2013 年度中には有力な取引先候補が見つからず、他国も含めて検討することとした。</p> <p>2013 年 2 月に開催した 10 周年記念シンポジウムでは、中国・四川省、ハイチのカウンターパートとともに、SADO のラフマンさんをパネリストとして日本に招待した。これをきっかけに、「日本フェアトレード委員会」(熊本市)の関係者となつたり、ミールバチャコット産の有機干しぶどうを日本で商品化することとなった。2013 年 12 月に 20kg を輸入し、2014 年 3 月からレーズン(1 袋 100g)の販売を開始した。2015 年 3 月までに総計 240kg を輸入販売してきた。今後も輸入、販売を継続する。</p> <p style="text-align: center;">* イベントでのレーズン販売</p> <p>5 月 3、4 日 高槻ジャズフェスティバル 5 月 4、5 日 アースデイ神戸 2014 5 月 24 日 関西 NGO 協議会 6 月 1 日 灘チャレンジ 8 月 30 日 六甲アイランド夏祭り 10 月 21 日 全日本仏教婦人連盟大会 11 月 1 日 荒田エコフェスタ 12 月 26 日 ワンワールド・フェスティバル for Youth 3 月 7 日 JICA 国際協力入門セミナー 3 月 8 日 ユニセフのつどい</p> <p>また、「れーずんの会」を不定期に開催し、レーズン販売の協力などを模索しつつ、レーズンを通してアフガニスタンの状況を発信してきた。</p>

	<p>以下、れーずんの会の開催状況</p> <p>第1回 れーずんの会(2014年3月28日 参加者18名)</p> <p>第2回 れーずんの会(2014年4月25日 参加者19名)</p> <p>第3回 れーずんの会(2014年10月16日 参加者11名)</p>
--	---

事業名	1-(2)中国・四川省地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約700名および周辺住民
実施内容	<p>2008年の四川大地震直後からCODEはスタッフの吉橋を現地に派遣し、北川県光明村において、アジアの多国籍のボランティアたちとガレキの片づけ、仮設住宅建設補助、村祭り開催などの活動を行いながら、被災者に寄り添って来た。</p> <p>その後、診療所と村役場を併設した「総合活動センター」建設プロジェクトが政府の都合により変更せざるを得なくなったが、新たに「老年活動センター」建設プロジェクトを提案し、2011年6月に着工、9月に完成した。</p> <p>センターは村の中心部4組の森に囲まれた場所で、駐車スペースなど総面積約1000平米、築面積約380平米の規模で、釘を一本も使わない木造軸組構法で建築され、中国の伝統木造様式である三合院(3棟が中庭を囲むようなコの字型のデザイン)で、中には村の高齢者の語らいの場、女性たちの踊りの練習の場、子どもの遊び場にもなっている。住センター中央は住民の会議や祭りやイベントの場として活用され、緊急時の避難所としての役割も持つ。</p> <p>2011年3月の東日本大震災では光明村を始めとする四川の被災地からたくさんのはがき、横断幕、ビデオなどのメッセージや義捐金2万8000元(約36万円)が届いた。</p> <p>2011年9月の完成後、鍵の引き渡し式の際には、芹田代表理事やコープこうべの秦理事らにもご列席いただき、盛大に式典が催された。</p> <p>その後、防腐のためのニス塗りも行い、現在は村民たちが自立に向けてセンターを「農家楽(中国式アグリツーリズム)」として活用している。</p> <p>2012年3月には、金沢大学との協働で光明村の被災者3名を日本に招き、能登半島地震(2007)や東日本大震災の被災地を訪問し、被災者との交流を行った。</p> <p>2013年2月にはCODE10周年記念シンポジウムに光明村の彭廷国医師が来日し、四川地震におけるCODEとの活動を語った。その後、アフガニスタン、ハイチのゲストと共に東日本大震災の被災地も訪ね、被災者や支援者との交流を行った。10周年シンポジウムの際に行った若者のポスターセッションで優勝した神戸大学の学生を四川省の被災地に案内し、被害や復興について学んでいただいた。</p> <p>2013年9月には、北京より農家楽の専門家である王橋女史(中国社会科学院)を光明村にお招きし、ワークショップを開催した。農家楽の運営を如何に住民参加型で行うかが語られ、今後、住民を巻き込んだ運営の一助となった。その後、センター前に蓮の池を使った釣堀を造成し、毎日約20名ほどの観光客が来ていて、少しずつではあるが、センターの運</p>

	<p>営も軌道に乗ってきている。</p> <p>2014 年より民間レベルによる今後の日中災害救援における連携を深めるために日中の NGO やボランティアが共に学び合う場を企画し、2015 年 3 月には日中 NGO・ボランティア研修交流事業(全 2 回)を実施した。第 1 回は学生 6 名が四川の被災地を訪問し、光明村で桜の木を絆の象徴として記念植樹した。また、2015 年 6 月または、7 月には第 2 回として四川の NGO 関係者を日本に招聘し、神戸、中越を訪問し、今後の災害救援において連携を深めていく予定である。</p> <p>現地派遣</p> <p>8 月 1 日～12 日 第 24 次派遣 (青海省地震第 5 次派遣と並行)</p> <p>2 月 4 日～10 日 第 25 次派遣 (日中 NGO・ボランティア研修交流事業の下見)</p> <p>3 月 24 日～30 日 第 1 回日中 NGO・ボランティア研修交流事業(参加者 6 名)</p> <p style="text-align: center;">* CODE 未来基金の第 1 号事業として助成を受けた。</p>
--	---

事業名	1-(3)ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	ポルトープランス、ラプレン、レオガン周辺住民
実施内容	<p>① CODE 海外研究員・クワウテモックさんの派遣(2010 年度～2011 年度)</p> <p>地震直後より、メキシコから CODE 海外研究員のクワウテモックさんを派遣し、レオガンを中心に支援プロジェクト立案のための調査に入った。海外からの NGO と地元の医師などで Ayuda a Haiti というネットワークを立ち上げ、移動診療所やコミュニティ FM のサポートを幅広く展開した。また、孤児院をまわってレクリエーションを実施するなど孤児のケアにも尽力した。</p> <p>② ACSIS への支援(2010 年度～2012 年度)</p> <p>2010 年 4 月にはラプレンを拠点に活動する被災者団体 ACSIS の緊急物資配布に対して資金面から協力を行った(50 万円)。その後、AC SIS は被災者の生業支援として露天商にチャレンジする女性起業家を中心にマイクロファイナンス事業をスタートさせた。これは、貧しい女性を対象に事業再建資金を融資し、被災によって途切れた収入の回復を支援するものである。2011 年 1 月、約 128 万円(約 15,200 ドル)を送金し、40 人の女性に 100～500 米ドルが融資された。2012 年 8 月の訪問では、融資を利用した女性たちが商品や道具を仕入れ、小売店や食堂を再開あるいは起業し、暮らしを立て直している様子をヒアリングできた。初回の完済率は対象者の 7 割程度であり、回収した資金でさらに新たな融資が行われた。しかしその後、体調不良などが原因で返済できない人が増え、回収が困難となっている。</p> <p>③「日本ハイチ協会」拠点支援(2012 年度～2014 年度)</p>

同会は地震後よりポルトープランスで日本語教室や日本文化教室を実施してきた NGO で、2012 年後半からそれまでの拠点が利用できなくなるという状況であった。新たな拠点の家賃 3 年分を支援し、女性や子どもが集まる場として利用していただくとともに、ハイチにおける支援団体がネットワークづくりに活用いただくこととした。2012 年 9 月、計 15,220 ドル(年間 5000 ドル。約 130 万円)を送金した。現在、文化交流など各種イベントが行われている。

④シンポジウムパネリストとして GEDDH 事務局長への招へい(2012 年度)

2012 年 2 月 2 日に開催した 10 周年記念シンポジウムに GEDDH のジャン・クロード・レフェルブさんをパネリストの一人として招き、東日本大震災被災地である岩手県、宮城県を訪れ、被災者との学びあいを行った。

⑤「GEDDH」農業技術学校支援(2012 年度～)

ハイチで結核治療に取り組んで来た日本人医師でシスターの須藤昭子さん(クリスト・ロア宣教修道女会)と 2010 年に出会い、シスターの設立した NGO「GEDDH」の農業を支援する話が当初から出ていたものの、2011 年、先方から辞退の申し入れがあったため一端白紙に戻した。しかし、2012 年 8 月の訪問前に再びその話が持ち上がり、現地でシスター須藤と GEDDH とのミーティングを経て、農業技術学校(ETAL)の建設を支援することが決定した。GEDDH には学校運営の経験が無いことから、2013 年 5 月現地や海外の関係者を含む顧問会(※)が設立され、この顧問会を ETAL の運営者とする事が決まった。

2013 年 7 月に予算約 900～1000 万円で着工したが、8 月に土地の契約や顧問会内での役割分担をめぐる議論が生じ、一時中断となった。12 月、協定が再度まとめられ、建設再開の目処が立った。ETAL 名義での銀行口座が開設できしだい送金し、再着工する。シスター須藤の協力でするハイチ日本大使館からの備品協力支援は次年度に持ち越すことになった。

その後、シスター須藤や Bourget 氏(カナダの農業専門家)、在ハイチ日本大使館の方などの協力により両者の調整を行い、2013 年 12 月に新たな契約書が交わされ、ようやく建設が再開される目途が立ち、顧問会の一人であるカナダの Sylvio さんが、ハイチで再開に向けた調整を行ってくれたので、その詳細な報告を受け、2 度目の送金を行った。

2014 年 9 月にはシスター須藤を神戸にお招きし、講演会を行い 80 名の方にお越しいただいた。これによりハイチの現状のアピールする事が出来、参加費やカンパなどの寄付(約 10 万円)などもあった。その後もシスター須藤の聖心女学院での講演料などを寄付していただいた。2015 年 3 月にも毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に 40 万円の寄付をいただいた。

その後 2014 年 9 月に 3 度目の送金を行い、2015 年 4 月現在、学校は 9 割ほど完成している。一方で 2014 年 10 月より顧問の一人である Blot さんの職業訓練学校(CCFPL)の校舎を借りて、授業を開始している。現在 17 名の学生が農業を学んでいる。

※顧問会メンバー

・ Mr. Sylvio Bourget カナダ人で、ケベック州在住。農業・植林の専門家で、GEDDH 設立時

	<p>(2005 年頃)から毎年 1 回ハイチに通い、農業を教えている。シスターとは修道会のつながりによる知り合い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Mr. Jean-Claude Leferve GEDDH 事務局長。2 月のシンポジウムに来日された方。 ・ Mr. Joseph Ustache Estalien GEDDH の中核メンバーで、農業の実務に最も詳しい方。JICA の研修で神戸にも来たことがある。 ・ Mr. Pere Gabriel Blot カトリックの司祭。ドイツの Calitas によって建設された技術専門学校の事務局長。この学校には 6 部門の技術分野(建築、木工、配管、大工、ブリキ工、太陽光発電)があるが農業部門はない。大学ではないが、上級の学校とのこと。教師の給与は Calitas が1年間支援するが、その後は自分たちで賄わなくてはならないため、学校で生産したものを売って備えているという。 ・ Mr. Frere Olizar 聖テレシア会の修道士で、同修道会の総会計。学校の校長もしており学校の管理に慣れている。 ・ CODE 芹田代表 <p style="text-align: center;">※Sylvio 氏と CODE は遠隔のため、実務よりもアドバイザー的な関わりになる。</p> <p>《参考》CODE 訪問歴 クワウテモックさん</p> <p>第一次: 2010 年 1 月 25 日～3 月 10 日 第二次: 2010 年 3 月 30 日～5 月 15 日 第三次: 2010 年 6 月 17 日～9 月 5 日 第四次: 2010 年 10 月 1 日～12 月 20 日 第五次: 2011 年 1 月 9 日～3 月 31 日</p> <p>2010 年 8-9 月:野崎理事</p> <p>第六次:2012 年 8 月:芹田代表、岡本 第七次:2013 年 5 月:芹田代表、吉椿事務局長</p> <p>※2013 年 6 月～7 月には、災害看護支援機構のアテンドとして吉椿事務局長が同行した。</p> <p>2013 年 12 月 4 日 シスター須藤が事務所を訪問 2014 年 9 月 23 日 シスター須藤の講演会を主催(あすつてぶ神戸 参加人数 80 名) 2014 年 10 月 28 日シスター須藤の講演会をサポート(小林聖心女子学院) 2015 年 3 月 毎日新聞大阪社会事業団から「世界子ども救援金」としてハイチ支援に寄付(40 万円)をいただいた。</p>
--	---

事業名	1-(4)中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日～継続中
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	2008 年の四川省地震以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy

	<p>Garden Hostel」や四川省で共に活動した NGO、ボランティアを通して直後より被災地の状況把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会 (Snowland Service Group, SSG)」や中国の NGO「生命環懐協会」とのネットワークを築いた。</p> <p>並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、イアニさん(アラフマイアニ・フェイスル)とも情報交換をしながら連携も模索してきた。そこで 2011 年度よりチベット人には欠かせない牛である「ヤク」を住民で共有して貸し出す「ヤク銀行プロジェクト」の実施に向けて調整を重ねてきた。購入した母ヤクを被災者に貸し出し、乳から作られるチーズやヨーグルト、繁殖後のヤクの肉や毛皮を売ることで生計を建ててもらい、繁殖されたヤクまたは現金で返還してもらう仕組みである。</p> <p>2012 年 7 月の第 3 次派遣で僧侶や住民、遊牧民、獣医の代表で「ヤク銀行」プロジェクトの委員会が立ちあげられ、2013 年 4 月にイアニさんを現地に派遣し、最終調整を行った。8 月には委員会の協議を経て、最も貧しい遊牧民に優先的にヤクを提供した。提供されたヤクは現在、遊牧民によって飼育・繁殖されている。</p> <p>2014 年 8 月に吉椿が現地を再訪し、ヤク銀行プロジェクトやヤクの飼育などの状況を視察した。カトゥ村の遊牧民家族に提供された 37 頭のヤクは、現在、53 頭に増えている。</p> <p>8 月 1 日～12 日 第 5 次派遣(四川第 24 次派遣と並行)</p>
--	---

事業名	1-(5)インドネシア・ジャワ島中部地震救援プロジェクト(通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	2006 年 5 月 27 日～継続中
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県 パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約 130 名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村 7000 名、パンガン郡 2 万 7000 名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>2008 年 1 月、「呼び水プロジェクト」として、ナワンガン集落において水道管敷設を支援(同 4 月施工完了)。これを機に集落の人々は水と農業の問題に向き合い、集落が抱える貧困・若者の都市への流出についても住民自ら取り組みはじめた。例えば、浮いた水代の差益をプールして事業向け融資を実施するなどである。</p> <p>2010 年 7 月、CODE はこの集落の持続可能な暮らし確保に向けて村井理事と岡本が現地を訪れ、その後も集落住民、カウンターパートとなるデュタ・ワチャナ・キリスト教大学等との話し合いを重ねてきたものの、2011 年度後半に、カウンターパートとの連携を担っていた現地キーパーソンがプロジェクトに密に関われなくなったことから、住民は「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。一方、CODE 正会員である神戸学院大学浅野壽夫教授の授業「海外研修」で同集落へのフィールド研修に 2010、2011、2012 年はスタッフの岡本が、2013 年は村井理事が同行させていただき、情報収集を行った。</p> <p>2014 年は神戸学院大学の浅野壽夫教授(CODE 正会員)たちが現地を訪問し、ヤギ基</p>

	金プロジェクトの状況を共有させていただいた。
--	------------------------

事業名	1-(6)東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011年3月14日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>CODE は、東日本大震災発生後いち早く東日本支援を表明し、支援金を集めた。2011年度は、CODE に集まった支援金を、発足以来連携している被災地NGO協働センターを通して被災地支援に活用して貰うとともに、2011年4月1日から半年間同NGOにスタッフ二人を出向させた。また、金沢大学と連携し、2012年3月末に中国四川省から被災者3名、カウンターパート1名を招聘し、東日本の被災地への訪問と交流を行い、帰国前日にはCODE関係者などと交流会を行った。</p> <p>2012年度(2013年2月)には10周年シンポジウムのために招聘したアフガニスタン、中国・四川省、ハイチのゲスト3名が、東日本大震災の被災地を訪問し、被災者間の交流および情報交換を行った。</p> <p>2013年度は、フィリピン台風被災地の一部が高潮の被害で漁業が大きな被害を受けた事から、東日本大震災の被災漁村との交流を模索してきたが、未だ実現には至っていない。今後も引き続きフィリピンの被災地との交流を追及していく。</p>

事業名	1-(7)メキシコハリケーン救援プロジェクト <<終了>>
実施日時	2013年9月 日～終了
実施場所	メキシコ
受益対象者の範囲及び予定人数	メキシコ・ゲレーロ州山間部の住民
実施内容	<p>2013年9月11日から17日に同時発生したハリケーン「イングリッド」と熱帯低気圧「マニユエル」により、メキシコの内務大臣が「国土の3分の2が被災した」と発言するほど広範囲が豪雨や暴風、土砂災害の被害を受けた。都市部と山間部の支援格差が大きく、アカプルコなどの都市には支援が集まり、復旧も早かった一方、特に被害の大きいゲレーロ州の山間部では土砂崩れに伴い孤立した集落も多く、政府の支援が届かず飢餓状態に陥った地域もあった。</p> <p>発災後すぐにメキシコシティのCODE海外研究員、クワテモックさんと連絡を取り、救援活動を開始したが、世界的にも報道は少なく、CODEへの寄付金も約20万円のみであった。クワテモックさんは、現地の若者が今回の災害を機に立ち上げたグループ Guerreros por la montana と共に食糧や冬物衣類の配布などを行った。また日本人旅行者の花田さんも先述のグループと共に活動し、CODEへ情報を提供してもらった。</p> <p>集まった寄付金をクワテモックさんに託し、被災者へのワークショップや子どもへの寄り添い支援を行い、本事業は終了した。</p>

事業名	1-(8)フィリピン台風被災地救援プロジェクト
実施日時	2013年11月8日～継続中
実施場所	フィリピン セブ島北部、バンタヤン島
受益対象者の範囲及び予定人数	セブ島北部、バンタヤン島などのバラングイ(最少行政単位)の漁師や女性 約1000人
実施内容	<p>2013年11月、観測史上最大級と言われる台風 Haiyan(現地名 Yolanda)は、フィリピン中部のレイテ、サマル、セブ、パナイなどの島々に甚大な被害を引き起こした。CODEは、直後より救援活動を開始し、安全性やアクセス、規模などを考慮し、スタッフをセブ島、パナイ島へ派遣し、調査と少量の物資配布などを行った。その後、2014年1月末に再度訪問し、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」へのヒアリングを行い、具体的なプロジェクトのサイトやカウンターパートの可能性を探った。加盟団体である NGO、SPFTC (Southern Partner Fair Trade Center)、FIDEC (Fisherfolk Development Center) や漁師でつくる団体 PAMANA を通じてセブ島北部やバンタヤン島でボートや漁網などを提供する漁業支援を決定した。</p> <p>また、漁村における女性の役割の重要性やこの NGO ネットワークの加盟団体が被災地でグループ (Association) を組織し、自立支援を行っている事などから女性の自立も視野に入れた漁村コミュニティーの支援も目指し、現地 NGO としっかりと信頼関係を築く。</p> <p>2014年2月に150万円の寄付を頂いた静岡の連携団体である「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」の方と吉椿が3月にフィリピンを訪問し、現地 NGO と協議し、具体的な調整を行った。CODEの寄付金約300万円を使って、セブ島北部、バンタヤン島の6つのバラングイ(最小行政単位)にボートを提供し、3世帯の漁民で1つのボートを共有する。</p> <p>今後、ボートの種類、数、共有方法などの詳細は、現地 NGO ネットワーク「ABAG Central Visayas」と住民組織 (Association) が協議しながら決めていく。</p> <p>2014年秋頃より現地の NGO ネットワークを通じてセブ北部の小島 Lipata 島にて船大工によるボート製作を行い、2015年2月にはボート2艘がバンタヤン島のバラングイ POOC の被災漁民に提供された。</p> <p>*これまでの動き</p> <p>2013年</p> <p>11月11日 救援活動開始 神戸新聞電話取材(吉椿)</p> <p>11月12日 読売新聞電話取材(吉椿)</p> <p>11月15日～24日 フィリピン台風被災地第1次派遣(上野、頼政)</p> <p>11月21日 神戸新聞取材(吉椿)</p> <p>11月26日 「ラジオ関西・時間です! 林編集長」に出演(上野・頼政)</p> <p>11月29日 毎日新聞取材(吉椿、上野、頼政)</p> <p>12月2日 「文化放送・くにまるジャパン」に電話出演(上野)</p>

12月3日	フィリピン台風災害 被災地派遣報告会(村井理事、吉椿、頼政、上野) 神戸新聞、毎日新聞取材
12月16日	神戸大学へぱっふ「フィリピン台風報告会」に参加(頼政)
12月25日	21世紀研究機構研究会「国際防災協力体制構築の検討」に参加 (吉椿、頼政)
12月26日	ADRC.IRP.DRI「フィリピン合同調査報告会」に参加(吉椿)
2014年	
1月18日	JICA 関西「フィリピン緊急援助隊報告会」に参加(吉椿)
1月22日	大阪市立大学「フィリピン台風災害報告会」に参加(吉椿)
1月30日～2月8日	フィリピン台風被災地第2次派遣(吉椿、上野)
2月27日	神戸新聞取材(吉椿、上野) 朝日新聞取材(吉椿、上野) 毎日新聞取材(吉椿、上野)
2月28日	朝日新聞取材(吉椿、頼政、上野)
3月3日～7日	「ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク」のアテンド (第3次派遣)(吉椿)
3月11日	みなとコンサルティングで支援報告(岡本、上野)
3月23日	朝日新聞電話取材(上野)
3月25日	毎日新聞電話取材(吉椿)
3月29日	フィリピン台風災害 被災地派遣報告会 (室崎副代表理事、山添理事、村井理事、村上理事、吉椿、岡本、多田、上野)
5月15日	第3回食と国際協力「フィリピン」(吉椿)
5月27日～31日	国境なき災害支援隊の JFK 図書館プロジェクトのアテンドでセブ島へ (上野)
8月20日	日本災害看護学会(東京)にて「フィリピン台風災害」の講演(吉椿)
12月12日～16日	北陸学院大学ボランティアキャンプの下見でセブ島へ(吉椿)
2015年	
3月1日～6日	北陸学院大学ボランティアキャンプへ同行(吉椿)

事業名	1-(9)アフガニスタン地滑り救援プロジェクト 《終了》
実施日時	2014年5月2日～終了
実施場所	アフガニスタン北東部バタフシャン州アルゴ郡アーブバリーク村
受益対象者の範囲及び予定人数	アーブバリーク村の約1400人
実施内容	2014年4月末よりアフガニスタン北部で降り続いた雨によって洪水などの災害が連続的に発生した。5月2日にはバタフシャン州で大規模な地滑りが発生し、503名が亡くなった。水害、地滑りは、アフガニスタン北部14州で死者666名、倒壊家屋約1900棟、被災世帯12967世帯に上る。 CODEは2003年よりアフガニスタンのぶどうプロジェクトを現地で支えるカウンターパー

	<p>トのラフマンさんとの長期的な関係を築いており、そのことから今回の地滑り災害への支援を決定した。</p> <p>避難キャンプでは自分たちで食事を作る調理器具が不足している事から、ラフマンさんたちが地元で呼びかけた少額寄付を使い、鍋やポットなどの調理器具の提供を始めた。CODE はラフマンさんたちの活動をサポートすべく「キッチン道具を贈ろう」と寄付を呼びかけ、22 万 4000 円が集まった。この資金を活用してラフマンさんが購入したキッチングッズが、避難キャンプの人々に届けられ、本事業は終了した。</p>
--	--

事業名	1-(10) アフガニスタン雪崩災害救援プロジェクト《新規》
実施日時	2015 年 2 月 27 日～継続中
実施場所	アフガニスタン・パンジシール州
受益対象者の範囲及び予定人数	アフガニスタン・パンジシール州の雪崩被災者約 300 人
実施内容	<p>2015 年 2 月 24 日から 25 日にかけてアフガニスタン北東部で大規模な雪崩災害が発生した。2 月初旬からこれまでにパンジシール州やパルワーン州などアフガニスタン北部全域の 22 州が雪害や水害、土砂崩れの被害を受けており、各地で被害が発生している。被害はこれまでに死者 290 名、全壊損壊家屋 6013 棟となっている。</p> <p>CODE は現地カウンターパートのラフマンさんに連絡を取り、救援活動を開始した。被災地への道が寸断したことや都市部での停電などにより被災地の状況把握が難しい状況である。被災地では家屋の倒壊のほか、Mulberry fruits という果実が雪崩により失われ、果実（桑の実）の栽培を収入にしている被災者の生計手段が無くなる被害も出ている。</p> <p>日本での報道がほとんどないことから本災害への注目度は低いが、Facebook やメーリングリストでの情報発信の他、イベントでのチラシ配布ぶどうオーナーやアフガニスタンれーずん購入者を中心とした 185 名にプロジェクト支援の呼びかけのはがきを送り、3 月末時点で 17 万 100 円の寄付があった。</p>

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1)世代交代に伴う事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務局
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	<p>2013 年度より吉椿雅道を事務局長として内外への発信、および事務局体制の充実化を図ってきた。4 月より正式にスタッフとして活動する上野智彦は、関西 NGO 協議会等の勉強会に積極的に参加し、事務局運営やプロジェクト運営についての知識を深めた。</p> <p>2014 年 2 月より新スタッフ、多田さんやボランティアさんの力を借りて HP や英語サイトの充実を図った。多田さんは 12 月で退職したが、その後は、2～3 名のボランティアさんの</p>

	協力で英語や HP などをサポートしてもらっている。
--	----------------------------

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。
実施内容	<p>2014 年度は、村井理事を講師に計 3 回(月に 1 回)の CODE 寺子屋を開催し、スタッフやボランティアなどの若い人たちが CODE の理念や活動を学ぶ場を提供した。</p> <p>また CODE 未来基金の助成で、日中 NGO・ボランティア研修交流事業を実施し、若者 6 名が四川の被災地を訪問し、災害救援 NGO の現場を視察する機会も作り、将来的に NGO を志す若者たちの学ぶ場となった。</p> <p>CODE 寺子屋 第 1 回 2014 年 4 月 19 日 参加者:7 名 第 2 回 2014 年 5 月 10 日 参加者 10 名 第 3 回 2014 年 6 月 21 日 参加者:9 名</p>

事業名	2-(3) ボランティアの日
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	学生や若者数十名
実施内容	<p>月に一度開催している「食と国際協力」を通じて新たなつながりも生まれてきた。これをきっかけにレーズン販売やイベントなど CODE の関わるボランティアさんも徐々に増えてきた。2014 年度は、事務局ボランティアが 2 名、翻訳ボランティア 1 名の方に協力していただいた。その他、災害発生時などは複数の翻訳ボランティアにご協力いただいている。</p>

事業名	2-(4) 月イチシリーズ「食と国際協力」《新規》
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	<p>2014 年 3 月より開催している「れーずんの会」から派生した企画として「食と国際協力」を月 1 回、第 3 木曜日に開催している。食を通して、その国について学び、語る場を作る。災害が起きる前からその国の事を知り、身近に感じてもらう。これにより普段の災害救援活動では出会えない方々にもご参加いただき、CODE を知ってもらおうと同時に、その中から CODE に積極的に関わる若者を発掘していく。</p>

	<p>* 開催された日程と内容</p> <p>第1回 れーずんの会 (CODE) (2014年3月28日) 参加人数:11名</p> <p>第2回 れーずんの会 (村井理事) (2014年4月25日) 参加人数:15名</p> <p>第3回 フィリピンからまなび(PEPUP 中山さん+吉椿) (2014年5月15日) 参加人数:13名</p> <p>第4回 インドネシアとつながる (JICA 兵庫デスク 中村さん+村井理事) (2014年6月19日) 参加人数:15名</p> <p>第5回 食から見る日本とアメリカ(ワールドユースジャパン学生+多田、上野) (2014年7月15日) 参加人数:21名</p> <p>第6回 青海省チベット高原から (吉椿) (2014年8月21日) 参加人数:11名</p> <p>第7回 ハイチからのたより (シスター須藤+吉椿) (2014年9月24日) 参加人数:11名</p> <p>第8回 れーずんの会 (村井理事、多田) (2014年10月16日) 参加人数:11名</p> <p>第9回 イランってどんな国? (奥、ナヒド夫妻+CODE) (2014年11月20日) 参加人数:11名</p> <p>第10回 台湾とのきずな(李勇昕さん) (2014年12月18日) 参加人数:9名</p> <p>第11回 バングラデシュ～災害のスーパーマーケットと呼ばれる国 (人と防災未来センター 斉藤さん) (2015年2月19日)参加人数:13名</p> <p>第12回 中国四川の風土と食 (吉椿) (2015年3月19日) 参加人数:7名</p>
--	--

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1)災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	フィリピン台風 Haiyan の支援に際し、UNOCHA 運営の「Reliefweb」に掲載されている情報や現地の英字新聞をボランティアの方に訳していただき、CODE World Voice のブログに掲載した。このとき、全国から翻訳ボランティア・情報収集ボランティアの申し出があり、広く協力いただいた。現在もHPの英語訳などにボランティアの方の協力を得ている。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》神戸学院大学
実施日時	下記の通り
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の範囲及び予定人数	約40名

<p>実施内容</p>	<p>① 「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣 CODE とのコラボレーション事業という位置付けで、7 年目となる 2014 年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記の通り実施した。</p> <p>《内容》</p> <p>4/10(木) 第1回 ガイダンス(浅野壽夫教授、村井雅清理事)</p> <p>4/17(木) 第2回 阪神淡路大震災とボランティア(村井雅清理事)</p> <p>4/24(木) 第3回 東日本大震災とボランティア(頼政良太)</p> <p>5/1(木) 第4回 CODE が担う社会貢献について (吉椿雅道)</p> <p>5/8(木) 第5回 アフガニスタンと開発援助 (村井雅清理事)</p> <p>5/15(木) 第6回 フィリピンの復興から学ぶ (吉椿雅道)</p> <p>5/22(木) 第7回 災害復興から持続可能な開発プロジェクト (インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み)(浅野壽夫教授)</p> <p>5/29(木) 第8回 四川大地震と CODE プロジェクト(吉椿雅道)</p> <p>6/5(木) 第9回 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠理事)</p> <p>6/12(木) 第10回 農といのちを考える(本野一郎さん)</p> <p>6/19(木) 第11回 災害時における地域力(織田峰彦さん)</p> <p>6/26(木) 第12回 災害復興と行政の役割(斉藤富雄さん)</p> <p>7/3(木) 第13回 災害とジェンダー (斉藤容子さん)</p> <p>7/10(木) 第14回 振り返り(江田英里香先生、村井雅清理事)</p> <p>7/17(木) 第15回 まとめ (江田英里香先生、村井雅清理事)</p> <p>その他の講義、シンポジウムなどにも講師として派遣した。</p> <p>5月31日 神戸学院大学社会貢献入門で講義(吉椿)</p> <p>7月21日 神戸学院大学現代社会学部記念シンポジウムでパネラー(吉椿)</p> <p>11月2日 神戸学院大学シンポジウム「阪神・淡路大震災から未来へ」で パネラー(村井理事)</p> <p>11月25日 神戸学院大学「ボランティア論 I」で講義(吉椿)</p> <p>② インターンシップ受け入れ 昨年に続き、8月25日から29日まで 学生インターン2名を計5日間受け入れた。</p>
-------------	--

<p>事業名</p>	<p>4-(2) 《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会</p>
<p>実施日時</p>	<p>随時</p>
<p>実施場所</p>	<p>未定</p>
<p>受益対象者の範囲及び予定人数</p>	<p>未定</p>
<p>実施内容</p>	<p>① 講師派遣 6月21日 JICA PARTNER 「国際協力人材セミナーin 関西」で講演(吉椿)</p>

<p>9月3日 帝塚山学院大学集中講義（吉椿）</p> <p>1月14日 龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿）</p> <p>③ NGO-JICA 協議会、および提言専門委員会への参加</p> <p>5月15日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>5月19日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>6月12日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>6月24日 関西 NGO 協議会提言専門委員会に参加（村井理事）</p> <p>6月25日 第1回 NGO-JICA 協議会に参加（村井理事）</p> <p>8月21日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>9月8日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>9月26日 第2回 NGO-JICA 協議会に参加（村井理事）</p> <p>10月15日 関西 NGO 協議会提言専門委員会に参加（村井理事）</p> <p>12月16日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>1月18日 第3回 NGO-JICA 協議会にスカイプ参加（村井理事）</p> <p>3月12日 NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に参加（村井理事）</p> <p>3月25日 第4回 NGO-JICA 協議会にスカイプ参加（村井理事）</p> <p>② その他</p>
--

事業名	4-(3) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	<p>① 関西 NGO 協議会の活動への参加</p> <p>8月5日 ソーシャルプロダクツに関する企業向け勉強会にてレーズンを紹介（多田）</p> <p>10月11日 関西 CS ネットワークフォーラムに参加（多田）</p> <p>12月26日 ワンワールド・フェスティバル for Youth に実行委員として参加（多田）</p> <p>② NGOJICA協議会「防災・減災における連携強化」パイロット事業（担当：村井）</p> <p>1月25日 JICA 防災研修オブザーバー参加（上野）</p> <p>2月11日 JICA 防災研修オブザーバー参加（上野）</p> <p>③ TELL-NET フォーラム 2015 への参加</p> <p>延期していた TELL-NET フォーラムが 2015 年 3 月仙台での国連防災世界会議の場で開催。（CODE は欠席）</p> <p>④ コープこうべとの連携</p>

	<p>5月30日 地域コープ委員会学習会で講演(吉椿)</p> <p>6月11日 コープこうべ第94期通常総代会に出席(吉椿)</p> <p>12月21日 黒田裕子を偲ぶ会の実行委員会に参加(村井理事)</p> <p>1月16日 つながろう COOP アクション交流会で講演(村井理事)</p> <p>3月8日 ユニセフのつどい(齊藤さん、細川、吉椿)</p> <p>⑤ 若者の団体とのネットワーク</p> <p>CODE の活動を定期的に支えてくれる若者のグループをつくることを目指し、ネットワークを広げてきた。特に、フィリピンの救援プロジェクトや報告会を通じて、ワカモノヂカラプロジェクト、神戸大学PEPUP、神戸市外国語大学ボランティアコーナー、アイセック神戸大学委員会、NPO まなびと、などの団体との関係を深めてきた。</p> <p>7月26日 まなびと主催「セルビア×災害支援×日本語教師」で講演(吉椿)</p> <p>7月30日 アイセックディベート大会に参加(上野)</p> <p>8月31日 ワカモノヂカラ NPO 法人設立記念パーティーに出席(吉椿)</p> <p>11月17日 アイセック神戸大学委員会送り出し事業局面接官を担当(吉椿)</p> <p>⑥ その他</p> <p>6月2日 JICA 関西と防災関係団体の懇親会に出席(吉椿、上野)</p> <p>8月19日 世界人権デー記念イベントに参加(上野)</p> <p>8月28日 JICA フィリピン報告会に参加(吉椿、上野)</p> <p>12月12-16 北陸学院大学フィリピンボランティアキャンプの下見に同行(吉椿)</p> <p>1月16日 IRP 「国際復興フォーラム 2015」に参加(吉椿)</p> <p>1月17日 DRI 「国際防災・人道支援フォーラム 2014」に参加(上野)</p> <p>1月18日 JICA 震災 20 年シンポジウムに参加(上野)</p> <p>1月20日 DRA メモリアルカンファレンスに参加(中川、吉椿、上野)</p> <p>1月25日 JICA 防災研修にオブザーバー参加(上野)</p> <p>2月10日 日中関係団体春節の集いに参加(芹田、上野)</p> <p>2月11日 JICA 防災研修にオブザーバー参加(上野)</p> <p>3月1日～6日 北陸学院大学フィリピンボランティアキャンプのアテンド(吉椿)</p> <p>3月16日～18日 第3回国連防災世界会議におけるパブリックフォーラムである JICA フォーラムのシンポジウムでパネラー(村井理事)</p>
--	--

事業名	4-(4) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 2013年11月に発生したフィリピン台風災害を機にセブ島で活動するNGO ネットワーク「ABAG! Central Visayas」との関係を築いてきた。引き続き本ネットワークとの連携を

	<p>深め、防災や今後の災害救援に活かしていく。</p> <p>② 2008年の四川大地震以降、つながっている四川のNGO「四川尚明公益発展研究センター」、「NGO 備災センター」、「壹基金」などとの連携を、2015年3月に日中NGO・ボランティア研修交流事業をきっかけに深めてきており、今後、両国の災害救援などで連携していく。</p>
--	--

【5. 「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	<p>今年度は室崎副代表理事を講師に4回シリーズで寺子屋を開催した。この寺子屋は、国内外の災害復興の事例や東日本大震災の現状などをNGO、NPO 関係者だけでなく、研究者、市民などと共に学ぶ機会となった。詳細は、以下の通り。</p> <p>第1回「阪神・淡路大震災からの学び」(2014年7月25日) 参加人数:20人 第2回「国内の災害復興からの学び」(2014年8月22日) 参加人数:19人 第3回「海外の災害復興からの学び」(2014年9月26日) 参加人数:20人 第4回「東日本大震災からの学びとまとめ」(2014年10月31日) 参加人数:39人</p>

【6. 「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2014年度の賛助会員数は延べ約92名・団体、賛助会費は約32万円であった。なお、2011年度:約60名・団体(約24万円)、2012年度:約130名・団体(約50万円)、2013年度:100名(約35万円)であり、会員数、金額は前年度を下回った。</p> <p>賛助会員や長期の寄付者には機関誌「CODE レター」のみならず、アフガニスタンの地滑り災害発生時に支援を呼びかけるハガキや報告書の郵送など、災害救援活動をきっかけに寄付者とのコミュニケーションの機会を増やしたことで、いち早い反応をいただくことができた。</p> <p>2013年度より寄付および会費の振込にクレジットカード決済を導入したことで気軽に寄付できるようになった。</p> <p>その他、gooddo(寄付サイト)でのワンクリック募金による寄付額は、以下の通り。</p>

2014年度 gooddo による寄付額	
4月(1917円)	10月(1445円)
5月(1130円)	11月(1259円)
6月(2848円)	12月(1023円)
7月(1870円)	1月(492円)
8月(5108円)	2月(502円)
9月(2931円)	3月(1683円)
合計:22208円	

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>① 当団体主催の報告会は以下の通り。 9月23日 ハイチ講演会(シスター須藤、CODE 芹田代表理事)</p> <p>② 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 5月30日 地域コープ委員会学習会で講演(吉椿) 5月31日 神戸学院大学社会貢献入門で講義(吉椿) *4-(1)と重複 6月21日 JICA PARTNER「国際協力人材セミナーin 関西」で講演(吉椿) *4-(2)と重複 7月14日～19日 ワールドユースジャパン北米高校生研修 (村井理事、吉椿、上野、多田) 7月21日 神戸学院大学現代社会学部記念シンポジウムでパネラー(吉椿) *4-(1)と重複 7月26日 学びと主催「セルビア×災害支援×日本語教師」で講演(吉椿) *4-(3)と重複 7月29日 神戸大学教養言論「阪神・淡路大震災」で講義(吉椿) 8月19日～20日 日本災害看護学会第16回年次大会で講演(吉椿) 9月3日 帝塚山学院大学で集中講義(吉椿) *4-(2)と重複 9月22日 舞子高校で講義(吉椿) 9月26日 明石あかねが丘学園で講演(吉椿) 10月28日 小林聖心女子学院でのシスター須藤の講演会で報告(吉椿) 11月2日 神戸学院大学シンポジウム「阪神・淡路大震災から未来へ」で パネラー(村井理事) *4-(1)と重複 11月4日 神戸大学国際協力研究科で講義(多田、吉椿) 11月11日 JICE 主催 中国ボランティア代表団に講義(吉椿)</p>

11月25日	神戸学院大学「ボランティア論Ⅰ」で講義(吉椿)	*4-(1)と重複
11月25日	神戸女子大学で活動紹介(多田)	
11月29日	兵庫県立大学「災害と人と健康」で講義(吉椿)	
12月2日	JICA 研修「アンデス災害医療マネジメントコース」で講義(村井理事)	
1月12日	関西学院大学「復興・減災フォーラム」のシンポジウムでパネラー(吉椿)	
1月13日	楠高校で講義(上野)	
1月14日	龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義(吉椿)	*4-(2)と重複
1月15日	楠高校で講義(上野)	
1月21日	楠高校で講義(上野)	
1月23日	楠高校で講義(上野)	
3月7日	JICA 関西国際協力入門「国際協力の現場から見たイスラーム」で講演(吉椿)	
3月8日	ユニセフのつどい(斉藤さん、細川、吉椿)	*4-(3)と重複
3月10日	加古川西高校で講演(吉椿)	
3月17日	国連防災世界会議の JICA フォーラムのシンポジウムでパネラー(村井理事)	*4-(3)と重複

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行、 メーリングリスト、インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地約2000人／団体 インターネットは不特定多数
実施内容	<p>機関誌を4月(641通)、7月(637通)、12月(642通)の計3回発行した。</p> <p>2013年度より、インターネットでの広報事業として、Twitter や Facebook などの SNS を利用した情報発信に力を入れ、これまでと異なる層からの反響があった</p> <p>2014年3月末現在、CODE の FB に「いいね」をした人は648人、掲載記事によっては1000人以上が記事を見ることが出来る環境にある。1記事に対する「いいね」は通常20前後。</p>

【7. その他本会の目的のために必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID 設立のための準備
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	<p>2011年10月度理事会でCODE AID を立ち上げることを決定したが、2012年度になり認定NPO法人の取得には最低2年以上を要することが判明したため、改めて理事会で議論した。結果、10周年記念シンポジウムにて立ち上げを発表し、支援の呼びかけを行った。</p>

	<p>なお、理事候補は浅野壽夫氏(神戸学院大学教授)、大森保美氏(株式会社大森工業社長)、林晃史氏(弁護士)、芹田健太郎現 CODE 代表理事(神戸大学名誉教授)の4名、監事候補は安井一浩氏(公認会計士・神戸学院大学准教授)である。2013年度の総会および懇親会「CODEのタベ」には、大森氏および林氏に参加いただいた。2014年の「CODEのタベ」にも大森氏にご参加いただいた。</p>
--	--

事業名	7-(2) CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>本奨学金制度は、2005年度にはじまり2011年度で8年目となった。初年度の該当者で元 CODE スタッフ斉藤容子さんの留学に際する壮行会にて集まった資金 53 万円を元手として、全額が奨学金として手渡された。以後、該当者がいなかったため実施していない。2014年 12 月、斉藤さんよって全額返済された。</p>

事業名	7-(3)阪神淡路大震災 20 周年関連事業<<新設>>
実施日時	2015 年 1 月 * 終了
実施場所	神戸市内
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	<p>2015 年 1 月 17 日で阪神・淡路大震災から丸 20 年を迎え、様々なイベントが企画され、5 時 46 分に黙祷を捧げる人も例年よりも多かった。</p> <p>CODE は、「阪神・淡路大震災から 20 年 KOBE 市民と NGO フォーラム 2015」の実行委員として参画した。フォーラム当日は、松本理事、村井理事、村上理事、吉椿、上野が参加し、総勢 80 名の方々と世代を超えてこの 20 年の課題について議論を交わすことが出来た。</p> <p>また、コープこうべの主催する「つながろう COOP アクション交流会」の分科会で村井理事が講演した。* 4-(3)に掲載</p>

事業名	7-(4)第 3 回国連防災世界会議<<新設>>
実施日時	2015 年 3 月 14 日~18 日 * 終了
実施場所	宮城県仙台市
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	2005 年に神戸で開催された第 2 回国連世界防災会議から 10 年を経て、東日本大震災の

	<p>被災地である仙台市で第3回が開催された。約400のパブリックフォーラムや市民防災会議などが催され、世界187の国々から参加し、15万人以上が参加した。会議の最終日には、ポストHFAとしての「仙台防災枠組み」と、新指針である「仙台宣言」が採択されたが、「原発」、「フクシマ」の問題が取り上げられる事はほとんどなかった。</p> <p>CODE関係者では、室崎副代表、野崎理事などが個別で参加し、CODEとしては村井理事がJICAのシンポジウムに登壇した。CODEは、2014年1月に立ち上った「JCC2015ネットワーク」に参加。同ネットワークは、同世界会議において「市民防災世界会議」を3月14日から16日の間開催した。*4-(3)に掲載</p>
--	--

事業名	7-(5) CODE 未来基金《新設》
実施日時	2014年12月10日～
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害NGOで働く若者、または将来的に災害NGOで働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	<p>これまでのCODEの事業で3年以上凍結しているプロジェクト費の総計の半額(約1000万円)の資金を活用して、2015年度4月より「CODE未来基金」を立ち上げる事が、世界人権宣言、および第1回神戸宣言の採択の日である12月10日に承認された。</p> <p>未来基金の詳細は今後、理事会で審議し、決定していく。</p>

事業名	7-(6)災害救援事業の管理・運営費の割合について《新設》
実施日時	随時
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>2014年度の総会において監査意見として、災害救援事業の「管理・運営費」の割合を見直す事が指摘され、事務局の運営状況を鑑みて、現行の15%から適正值である25%に引き上げる事が2014年9月度理事会において承認され、2014年10月より実施されることとなった。</p>